

ふれあい つながり かわら版

第3回小中一貫教育推進担当者会

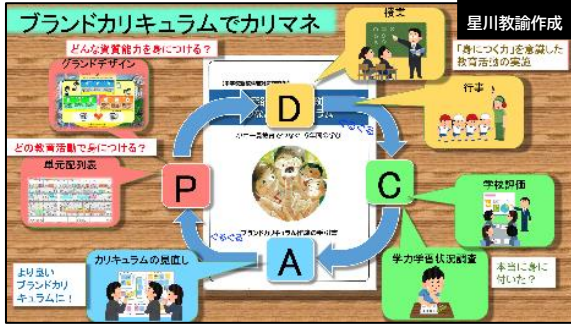
—令和4年度の取組を次年度につなげるために—

二月八日(水)に総合教育センターと各中学校ブロックをオンラインでつないで、第3回の小中一貫教育推進担当者会を開催しました。

冒頭の挨拶では、白鷺小中学校の上田校長先生から、「交流することが目標ではなく、目指すねらいの達成に向けてどのような活動を、いつ、どのような学年や集団において行うことが最も効果的なのか検討していくことが必要である。各種行事が単なるイベント的なものにならないよう、教育課程に位置付け、教職員、児童生徒が目的や内容をよく理解することが大切である。」とブランドカリキュラムの必要性について話がありました。



実践発表をする城乾中ブロック



続いて担当者代表として、白鷺小中学校の星川幹事長から、「ブランドカリキュラムは作成して終わりではなく、ねらった力が育ったか確かめるようにしていくことが大切である。」と来年度に向けての方向性が示されました。

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



小中一貫教育でつなぐ 子どもの未来

実践取組発表 城乾中ブロック 豊富小中学校

城乾中ブロックからは、

目指す子供像の合言葉「つ・み・き」をもとに、「小中一貫親子読書月間」の取組についての発表がありました。児童生徒と保護者のアンケート結果から、取組について検証し、継続して取り組んでいくことが、さらなる読書の習慣化、家族内でのコミュニケーション能力の高まりに繋がっていくと報告がありました。

豊富小中学校からは、ブランドカリキュラムに明記した「3つの身に付く力」を中心に据えた実践発表がありました。カリキュラム作成当初は、幼小中で消費者教育について取り組んでいたが、ICTをメインに内容を再考するなど、実態に合わせてカリキュラムを改善していることも報告されました。

発表の後には、城東小学校の太田校長先生から、実践取組発表に対する講評があり、「小中一貫教育の取組は安定期を迎えているが、『何のために』という目的

【目指す子ども像】

あいごとは

- つ たえる力
- み とめあう力
- き ちんとやりぬく力

学校・家庭・地域の協働

城乾中ブロックの目指すべき子供像へ
しっかりとした土台を作り、積み木を高く積み上げよう

豊富小中学校

【前に踏み出す力】
課題を多面的多角的に捉え、主体的に価値判断や意思決定をすることができる

【調べる力】
情報から課題を発見し、自分事として捉え、必要な情報を探し出し、整理したり伝えたりすることができる。～?を!に～

【自分で取り組む力】
自分の自覚を見据え、友だちも自分も大切にすることができる

を見失った取組は形骸化し、無駄なことをしている気になってしまふ。そのような中で取組をそぎ落としていくと、最後には何をしているかわからなくなり、『小中一貫教育のための小中一貫教育』をこなすという最悪のシナリオを迎えることになりかねない。」と警鐘が鳴らされました。中学校ブロックで9年間学校生活を送れば、「何ができるようになるのか」を示したものがブランドカリキュラムに記載している「目指す子供像」です。太田校長先生からは、両ブロックの実践事例を取り上げながら、「小中一貫教育が開始された頃の、理念を引き継ぎ、安定的・継続的・発展的に小中一貫教育を展開するために、ブランドカリキュラムを活用してほしい。」と助言をいただきました。

ブランドカリキュラムの効果的な活用を!

安室小学校の角倉校長先生の閉会挨拶では、ブランドカリキュラムを中心においた次年度の取組のヒントが安室中ブロックを例にして示されました。

- ①ブロックの組織を改めた。
- ②これまでの部会も大切だが、カリキュラムの推進との重複を防ぐ為、3つの身に付く力の部会に変更。
- ③子供の成果を見取る指標を確認し、取組を始める前の状況を調査した。

・姫路市教職員・児童生徒意識調査の学校質問項目に、カリキュラムの身に付く力を語尾だけ変えて指標にする。

「今後の課題として、カリキュラムを作成した教員も異動するので、『なぜ、この単元なのか、この単元の指導で何に留意するのか。』など、指導者が理解・意識することが不可欠となる。その手立てを考えていきたい。」と来年度に取り組むべき課題も示していただきました。

今年度も、担当者の皆様には、小中一貫教育の推進にご尽力いただき、ありがとうございました。来年度は、目指す子供像の実現に向け、ブランドカリキュラムが効果的に活用されることを願っています。